

# JIFAS NEWS

No.178 2017.04.30



Japan international Food and Aquaculture Society

〒302-0131

茨城県守谷市ひがし野 2-1-1001

TEL &amp; FAX : 0297-44-4487

E-mail : jifas@sage.ocn.ne.jp

http://www.jifas.net

## グローバル経済がもたらした、もう一つの危機

大規模なシステムと並行して機能する食の流通システムを新たに地域で構築するためには、相当な資本が必要となる。おそらくその大部分は公的資金で賄われることになるだろう。しかし、このような支出に前例がないわけではない。初期の種子研究所もそうだったし、農事相談事業やランドグラント大学、鉄道線路や湾岸施設の建設、最近の遺伝子組み換え食品へのてこいれまで、現代のアメリカの食システムが進化する中で経てきた過去の一つ一つの段階が、巨額の公的資

金の投入に頼ってきた。そしてこれらの事業は国家の食料安全保障や経済安全保障に不可欠なものとして正当化されてきた。ようやくこうしたメッセージが浸透し、緊縮財政下でも、食料安全保障は政策立案者の間で新しい影響力を持ち始めているとフォースターは語る。

エネルギー、気候、栄養価の高い食品の減少、そして国際政治まで、様々な懸念が高まる中で、「どの地域でも食料生産能力をある程度は回復させる必要がある」と論じた方が、ずっと簡単なのです。

### 青の革命

地域主義が食システムの安全と持続性を高める上で有効であるとすれば、次は、この食システムの生産力を大きく高めながら、その安全性と持続力を維持していくことが重要になる。未来の課題は、単に外部コストを下げるだけでなく、現在の人口に加えてさらに30億~40億人を、この先半世紀にわたって養えるようにすることだ。特に私たちに必要なのは、現在よりもはるかに大量のタンパク質を、はるかに少ない外部コストで生産する方法である。

供給側の問題の解決法は極めて単純だ。陸生の家畜は生物学上及び生態学上の制約を受けるため、より多くのタンパク質を、近年開拓が始まったばかりの町域である。

“海”から入手するというものだ。食料安全保障の楽観主義者たちはこれを「青の革命」と呼んでいる。魚は本質的に餌効率が高い。冷血生物で、水の力を利用して動き、体重を水で支えることから陸生生物と比べて体の維持に費やすカロリーがはるかに少ないため、結果的により太りやすいのだ。



また、魚はほかのどの陸生生物よりも産業化に適している。大量養殖が可能で、品種改良しやすいからだ(わずか30年間で養殖アトランティックサーモンの餌効率は約3倍になった)。

さらに魚やほかの海洋生物種は、陸生の家畜よりもはるかに多様である。陸を拠点としている食肉産業は片手で数えられるほどの数の種を軸に成り立っているが、商業用水産養殖業は比較的飼養しやすいこともあって、魚、貝類、甲殻類などの約440種を飼育している。ほとんどの商業用種は20世紀に飼養化されたもので、その4分の1はここ10年のうちに飼養化されている。(2面へつづく)